

図書・資料室だより

母たちのブルース

母親をめぐるいろいろな感情が交錯する本を紹介します。



『母の壁
子育てを追いつめる
重荷の正体』
前田正子／安藤道人 // 著
岩波書店 2023年

保育園入所のために妊娠中から保活、父親は仕事に忙殺されワンオペ育児、時短を取れば職場では二軍扱い。本書は、母親たちが直面する困難を「母の壁」と名付け、さらに保育の壁、家庭の壁、職場の壁の三つに分けて整理・検証し、子育て中の母親の苦悩をあぶりだします。



『母は死ねない』
河合香織 // 著
筑摩書房 2023年

本書は、難病の子を育てる母、精子提供や特別養子縁組で子を持つ母、我が子を亡くした母といった様々な母が登場します。依然多くの人々が持つステレオタイプの「理想的な母親像」に、傷つき悩みながら生きる女性たちの声を、丁寧に聴き取り綴るノンフィクション作品です。



『娘が理解できません』
岩井俊憲 // 著



『母親になって後悔してる』
オルナ・ドーナト // 著
新潮社 2022年

母親になったことに苦しみ後悔している23人の女性たちにインタビュー。彼女たちの溢れ出す言葉を調査・研究し「女性の生きづらさ」についてまとめた報告書です。世界中で衝撃と共感を集めたイスラエル発の注目の一冊です。



『母という呪縛
娘という牢獄』
齊藤彩 // 著

小説



『母親病』
森美樹 // 著
新潮社
2021年

母が突然亡くなった。夫、娘に尽くす家庭的だった母・園枝、結婚せずひとり暮らしをするキャリア女性の娘・珠美子、珠美子の前で園枝の死を悲しむ謎の青年。「完璧な母になるべく病」に振り回される母、娘、彼女らに関わる人々の姿を情熱的に描く、四編からなる連作小説です。



『星を掬う』
町田そのこ // 著



『対岸の家事』
朱野帰子 // 著



『坂の途中の家』
角田光代 // 著

フェミニスト地理学

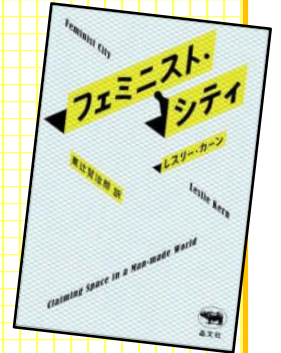
なぜベビーカーは電車
に載せづらいのか

なぜ誰もついて来ていないと確
認するために、わざと遠回り
をして帰らねばならないのか



母親・労働者・介護者として生活する女性は、多くの公共の空間を
望みどおりに移動することに、余計な苦勞を求められます。それは、
多くの公共スペースが男性の身体や要求を「標準」として設計されて
いるからです。「フェミニスト地理学」とは、これまでとは違うやり方
で、女性や障害のある人、マイノリティの人々の存在を想定した街を
作ることを考えていくものです。

参考：『フェミニスト・シティ』レスリー・カーン著（晶文社 2022）



男女共同参画 絵本を紹介



『ドラゴンのお医者さん』
ジョーン・プロクター
は虫類を愛した女性』

パトリシア・バルデス // 文
フェリシタ・サラ // 絵
岩崎書店 2019年

ジョーンは小さい頃からトカゲと遊び、トカゲやワニの本ばかり読む女の子。やがて、は虫類に対する深い知識と情熱をかわれ、自然史博物館、そしてロンドン動物園で働き、は虫類館初の女性学芸員になります。強い信念を持ち、世界中の女性に動物学者という道をひらいた女性の絵本です。

図書・資料室 ご利用案内

- 開室時間 9:00~17:00
- 12月の休室日 4日,11日,18日,25日
28日~31日
- 貸出(本・雑誌)15冊 3週間まで
(DVD) 2本 1週間まで
- お問い合わせ先(電話)
0748-37-3735(図書・資料室直通)
0748-37-3751(センター代表)

